

# 分析シート

( ) 学校 ( ) 年  
氏名 ( ) 男 ・ 女

分析例 **B** 規則違反への注意をきけずに、  
感情的にいらだちを表してしまう

記入日 ( ) 年 ( ) 月 ( ) 日 ( ) 曜日  
記入者 ( )

「状況把握」、「理解・実践」、「ふりかえり」の順に進みながら、子どもたちにできる支援を考えていきましょう。

## 状況把握

「子どもが苦戦した場面」を見つけたら、その子自身が「どんな状況にあるのか」を詳しくチェックしてみましょう。

観察チェック①では、発見した「苦戦した場面」そのものを挙げ、

観察チェック②では、その子を取りまく環境、その子自身の状態について振り返ります。  
(①での気づきも含めましょう)

観察チェック③では、何がこの子の課題なのか、気になるところはどこかを見つめ、印をつけます。  
(重要度によって、◎、○など使い分けてもいいです。)

## 観察チェック①

苦戦した場面

規則違反への注意を聞けずに、感情的にいらだちを表してしまう

分類		チェックの結果
起こった状況	いつ	違反が見つかった時
	どこで	校内
	だれが(だれと)	本人が、注意をする相手に対して
	周りの状況、様子	周りの友人たちは、違反行為を知っているが関わらない
	起こる頻度	休み明けは特に目立つ
	他の気になる状況、様子	初めてではなく、これまでも繰り返し違反行為をしているが、反省の様子は無い
子どもの状態	目に見える状態	見つかったことに対していらだち、壁をたたいたり、床を踏み鳴らしたりして抵抗する 教師に対して反抗的な態度をとる。大声で反抗しながら、涙を流す
	予想される心理状態	自分のやりたいこと、思いを中断されるため、いらだっている 叱られることへの抵抗感

観察チェック②

観察チェック③

分類			チェックの結果		これまでの結果を見て特に気になる点(◎、○など)	
環境	家庭	人的	親子、兄弟姉妹関係	母親との関係がよくない 自分の規則違反を保護者の耳に入れたくない	➡	◎
		物理的	住居		➡	
	学校	人的	教師、友人との関係	教師に対して、注意されたときは反抗的な態度を見せる 友人は同じ趣味・傾向のある相手が多い	➡	○
		物理的	学校環境		➡	
	地域	人的	地域の人との関係		➡	
		物理的	地域の環境		➡	
	社会	地域、地域・学校外の所属機関(チーム、習い事なども含む)	習い事のため遠くに出かけることがある	➡		
	自然	子どもが苦戦しやすい時間帯、季節、天候		➡		
発達	身体	身体全般の発達(不器用さ、感覚の問題など)	声の大きさのコントロールができない 感情が高まっている時は特に、相手・状況に構わず大声を出してしまうことがある	➡	◎	
	心理	情緒(不安定、感情の起伏などの心の発達状態)	感情の起伏が激しい。幼いおしゃれに興味・関心があり、芸能人の真似をして化粧をしたり、アクセサリーを身に付けたりしている	➡	◎	
	社会	コミュニケーション、社会性の問題	適切な言葉づかいができない 怒られているのに笑ってしまう	➡	◎	
	学力・思考力その他	できること、できないこと、その他(体力、芸術等)	学力は学年相当である 授業に参加できる 提出物を出す	➡	◎	

次は、③でチェックされた気になる行動を改めて書き出してみましょう。



## 理解・実践

観察チェック③でチェックした特に気になった部分を、観察チェック②からそのまま抜き出しましょう。それが、その子の課題につながります。

子どもがかかえている「課題」を明確にし、なぜ課題をかかえているのか、そうなるのか「仮説」を立てます。

仮説をもとにして、課題が改善できるような「手立て」を考えてみます。手立ては、具体的なものを思いつくだけあげましょう。

さらに、実際の生活の中でできる実践の「方法」「期間」を設定して取り組みます。

観察チェック③でチェックした、特に気になった点を②から改めて書き出してみましょう。

<観察チェック③から>

- ・規則違反が見つかり、反抗的な態度で、反省の様子が見られない
  - ・規則違反という事実を保護者に知られることを恐れて泣く
- 安定していない家庭環境

- ・気の合う仲間内ではよいが、クラス全体の中では親しい関係が築けていない
- ・感情の起伏が激しく、自分の気持ちを抑えられない
- ・声の大きさのコントロールが苦手である
- ・おしゃれに興味・関心があり、芸能人の真似をして着飾っている
- ・適切な言葉遣いができず、怒られていても笑う

その子は、なぜそのような行動をとってしまうのでしょうか。本人はどんな課題をかかえているのか、なぜそうなるのか、仮説を立てましょう。

抱えている課題

- ・自分の感情を素直に相手に伝えられない
- ・状況に合わせた言動ができない

仮説

- ・現実を認めることで自分が傷つくのを回避するために不適切な行動を取っている
- ・一般的な社会常識を身につけていないために、叱られた時の適切な態度ができない

仮説をもとに、具体的な手立てを考えて、実践してみましょう。

<手立て>

- ・落ち着いた状況で、本人の言い分を聞く
- ・現状を理解させ、冷静に判断、対処できるように指導する

<実践（期間）>

- ・怒られたときの適切な態度、声の大きさを含めた話し方を指導する（1学期間）
- ・注意を受けた規則違反がなぜいけないのかを理解させる（年間通して行うが、1学期間でふりかえる）

# ふりかえり

実践が有効だったかふりかえりましょう。

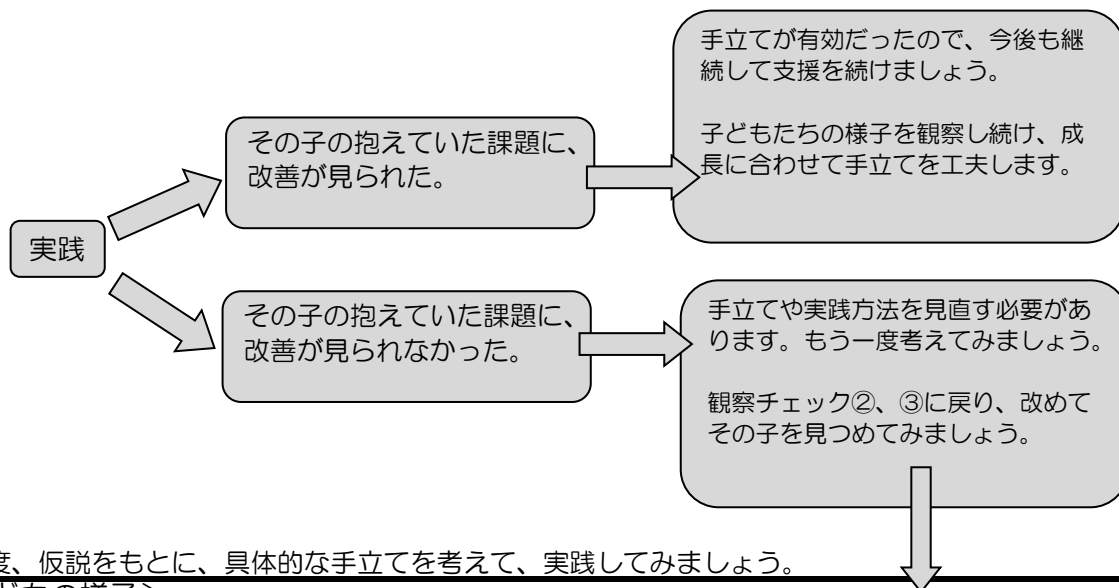
課題が全面的に改善されたのか、一部改善されたのか、方法・期間は適当だったかなど、考えてみましょう。

手立てや実践方法を見直す場合は、はじめの「観察チェック②、③」「仮説」などに戻り、その子を見つめ直してみましょう。

## <ふりかえり>

- ・劇的に変化したわけではないが、改善の兆候・態度は見られた
- ・自分自身を客観的に見たり、教師の話に耳を傾けたりできるようになった

## <考察しよう>



## <子どもの様子>

- ・興奮の時間が短くなっている
- ・指導をされると、まだいらいだちが見られる

## <今後の手立て>

- ・進学をめざし、学習に意欲的に取り組む
- ・社会的コミュニケーションの指導については継続していく

## <その後の実践結果>

- ・周りとの違いに気づき始めた
- ・教師との信頼関係が維持できたので、卒業後も学校に来ることがある